

サトリの
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

ネバダ日蓮仏教会観音寺副住職
金井勝陀ダグラスさん

第31回

日本語がわからない人にも
仏教の心を伝えたい

かない・しようだ・だぐらす 1972年、アメリカ・ソルトレイクシティ生まれ。アメリカで高校在学中に得度。1994年、ワシントン大学を卒業。シアトルで7年間働いた後、2002年にネバダ大学ラスベガス校にてMBAを取得。約5年前からネバダ日蓮仏教会観音寺副住職に。2011年12月より修行のため来日。2012年11月～2013年2月、日蓮宗百日大修行を成満。

私の父母はともに東京出身の日本人です。父は日蓮宗の開教師海外で布教活動をする僧侶として1964年、渡米しました。私はソルトレイクシティで生まれ、7歳からシアトルへ。シアトルでは、お寺で子どもたちに仏教のお話をするサンデースクールがありました。そのように私は小さいときから仏教や日蓮宗の教えを習ってきたので、シアトルの高校時代に得度したのも自然なことでした。

とはいえ、すぐにお坊さんになるつもりはなく、大学卒業後は就職して7年間働きました。それは

「社会で仕事をしたい」「いろいろな経験がしたい」と思ったからです。アメリカ人は日本人とは違い、「誰か聞いてくれないか」「私の気持ち、わかりますか?」という考え方です。そうした人たちを助けるためには、もつと人間としての経験が必要。その経験を生かして布教したい、と考えたのです。

40歳を目前に僧職へ。
百日間の厳しい修行を体験

30歳を過ぎて、MBAを取るためにラスベガスへ。ミシージュペラリージオといった高級カジノホテルで働きました。家族で移り住んだラスベガスでは、今年ネバダ観音寺を開堂。信徒はまだ20数名ですが、これからもっと増やしていきたい。でも、そろそろ父も高齢です。父の意志を継いで私も布教したい……そんな思いから、ホテルを辞め、日本に修行に来ることにしたのです。

10か月ほどお坊さんの勉強をしてから、日蓮宗百日大修行へ。修行に入ると、朝3時から午後1時まで一日7回水をかぶり、それ以外はお経を唱えます。食事はお粥だけで睡眠時間も少ない、厳しい修行です。私はこの修行で体重が14kgも減りました。つらいのは修行だから当たり前……そう思っていました。最後のほうは疲れ何も持てないような状態でした。初めての修行は無事成満することができましたが、これから半年

ほど、さらに日本で修行する予定です。いろいろな先輩方から学び、できれば来年、再行(2度目の修行)に入りたいと思っています。

これまでの経験を生かして
多くの人を助けたい

修行は成満しましたが、本当に大切なのはこれからの仕事。アメリカでも迷っている人はたくさんいます。みんなストレスを抱えています。私はそんな人たちを助けたい。日本語が全然わからない人でも、手を合わせてお題目を唱えることで気持ちが楽になり、重かった心が軽くなる……そんな仏教のすばらしさを伝え、力になりたいのです。仏教は頭で理解するものではなく、心で感じるもの。日本語や意味はわからなくても、心でわかってくれたらそれだけでいい。それが私が目指す布教です。



修行を終えた2月10日には、東京・目黒の立源寺にて大祈禱会が行われた。金井さんも参加し、水行を披露。髪や髭は伸び、頬はこけた姿が修行の過酷さを物語る。